

部 報

平成26年度 No.60

北海道大学馬術部



◆ 目 次 ◆

巻頭書	井上 京	2
活動報告		4
調教報告		
チェリーアドミラル号	本丸 尚人	18
ピュアメモリー号	佐治ひな子	20
北焔号	小山 寛	22
北菓号	高橋 春南	24
北魁号	中 一輝	25
北創号	中津 裕太	28
北騷号	寺元 純	30
離厩報告		
タフィー号	寺元 純	31
北藍号	中津 裕太	32
ペリエE号	上谷 丹里	33
ラベンズウッド号	高橋 春南	34
北柊号	佐藤 詩織	36
北凜号	梶山 恭子	38
入厩報告		
シュガーシャック号	清水麻優美	39
チェルシー号	中津 裕太	40
北水報告	佐近 慈	41
卒部にあたって		42
部員紹介		47
OB名簿		57
現役部員名簿		71
編集後記		72

「部報」の役割

井 上 京

北大馬術部が毎年発行している部報は、この馬術部の大事な資産の一つだ。部室にもここ十年分以上の部報が常備されているので、読んだ部員も多いことだろう。さらに幸いなことに、東京OB会の皆さんがホームページでこれまで発行された部報のすべてを公開してくださっている。「北大馬術部 部報アーカイブ」で検索してください。昭和30（1955）年に発行された第1巻以降のすべてがPDF化され保管されている。おそらくではあるが、こんな立派な活動の記録を冊子として、またアーカイブ化されたものとして保有・公開している運動部は全国にもそう多くはないのではなかろうか。とりわけ、それが馬術というスポーツに関わるものであり、学生馬術の貴重な記録となっていることは特筆すべき事だろう。

部報には先輩たちの汗と涙の記録が残されている。そのときどきの馬術部員が何を考え、どんなふう在活动中きたかが記されている。特に各馬の調教報告は、部員がチーフとして関われる時間の短さと、その馬が部馬として活躍する長さを考えれば、その馬についての非常に重要な情報を提供してくれる。チーフとなった人は、その馬に関わった先輩に直接に教えを請うのが第一だが、そうできないときにも調教報告によってその馬の初期調教からの来歴を知ることができる。またチーフは調教報告を書くことで、普段の自分の騎乗と調教を再認識することにもなる。

部報にはこれからを担う代、新しく役職に就いた部員たちの意気込みや、現役を退く代の反省と後輩たちへの期待も綴られている。各世代が抱えていた課題やその当時の部の雰囲気というものまでもが感じ取られる。会計報告を見れば、部の経済状態も垣間見える。ただしこの会計報告、収支が合っていないといった問題もある（赤字・黒字はどうなっている?!）。このことはまた別の機会に取り上げよう。

最近の部報について、内容がやや希薄なように感じている。最近の新聞でさえ活字を大きくし、情報量を減らしていることを考えれば、世の趨勢ということかもしれない。しかし後に続く世代に伝えるべきメッセージとして、部と部員と部馬の状況をきちんと記録に留めていくことは、北大馬術部の良き伝統の一つとしてこれからもぜひ継承して欲しい。部員の中には、部報は、現役からOBに対する活動報告、と思っている向きもあるようだ。たしかに部報の発行と発送には後援会からの助成をいただい

ており、OBへ活動状況を報告する義務はあろう。しかしそれ以上に、部報は、部員みんなの一年間の活動の記録であり、将来の後輩たちへのメッセージでもある。義務的に作るという意識ではなく、先輩たちの活動を上回る記録を残そうという意気込みをもって、前例踏襲に陥らず、新しい企画・内容を盛り込んでも良いのではないだろうか。たとえば、主要な大会・競技の経路図など、記録という意味では重要な情報だと思う。かつては部報の競技記録に経路図が掲載されていた時代もあった。写真も、ステイプルを含め競技写真を多く掲載していたこともある。いろいろな企画ができるのはなかろうか。

もう一点、冒頭に紹介した「部報アーカイブス」について。ここには毎年の部報だけでなく、記念誌も掲載されている。古くは「北海道帝国大学文武会馬術部十年誌（昭和15（1940）年3月刊行）」から、平成21年に発行された「北海道大学馬術部75年史」、最近では「北海道大学水産学部馬術部50年史（平成26年8月刊行）」まで、節目節目で編纂された刊行物が掲載されている。これらには部報以上に北大馬術部の歴史が濃縮されている。最近発行された水産馬術部の50年史を読ませていただいたが、大変な苦勞をしながらも部活動を継承してきたことが赤裸々に語られている。先輩たちの苦勞を知り、明日の活動の糧とするためにも、これらの一読をお勧めする。

末筆ながらアーカイブスの公開と維持に多大なるご尽力をいただいている東京OB会の諸先輩に深く感謝の意を表します。部員たちがこれらを大いに活用してくれることを期待しています。

活 動 報 告

《主将》

中 津 裕 太

現在北大馬術部は部員18人（3年生2人、2年生3人、1年生13人）、馬9頭で活動しています。人と馬の全体のバランスとしてはちょうどいいかと思いますが、下級生でも乗れるような馬が少ないため人と馬のトレーニングが同時にできるような練習方法を作り、その質を上げていく必要があります。

新馬が育たない、現役部員が馬に乗る以外の面での忙しさに追われるという現状を改善するため、今シーズンから市川先生に監督、近藤さん、堤さん、川崎さんにコーチをしていただくことになりいわゆる指導体制を確立することになりました。これを機に部活の基本というものを再確認していきます。現役部員はこの体制に頼りきるのではなく、あくまで現役主体の北大馬術部であること自覚し、日々目標に向かって努力を積み重ねていきたいと思っています。

《副将》

中 一 輝

現在の北大馬術部では3年目2人、2年目3人と上級生とされる学年の人数が少なく、部の運営や作業など様々な点を少ない人数で見なければならぬという状況です。こうした中で問題が発生しないためには全員が当たり前のことを当たり前にやっていたかなければいけません。そのためにただ注意をするのではなく、なぜうまくいかなかったのか、なぜやり忘れたのかなどを反省させるといった常に考えて行動できる雰囲気をつくる必要があると考えます。また副将として人員管理を担っている以上、部員の負担が偏らないよう考え、常に部の活動に良い状態で取り組めるようにする必要があります。過度に忙しいと心身共に余裕がなくなり様々な問題の原因になってしまいます。北大馬術部という伝統ある部がこれからも発展していけるよう常に考え努力していきます。

《主務》

新 谷 理 紗

現在、主務というのは「運営」という役職を取り仕切っています。運営というのは部の運営を始め、ノーザンホースパークで行われる5大会のうち主管大会の3大会、北大で開催される大会の運営、学校との連絡、また、これまでの後援会の仕事を受け持っている役職です。今年1年は先輩方や後輩たちに多くの助けをいただいて活動した年でした。大会運営に関しては、大会後にもミーティングによって反省してよ

りスムーズに運営していけるよう改善が見られました。

今の運営の課題としてはOBの皆様との連絡に不備な点が多々見られることです。コンパの連絡が行き渡っていなかったり、部報の発送が遅れてしまったり、離厩・入厩などの連絡が遅れてしまったりといったことがあげられます。そこでまず、現役版ホームページの掲示板でのお知らせをこまめにするところから始めたいと思います。入厩・離厩はもちろん、大会のエントリーや結果など、分かった時に早くお知らせできるようにいたします。URLはこちら (<http://8912.teacup.com/horse/bbs>) になります。よろしく申し上げます。また、現在コンパなどのお知らせをヤフーメールでしております。以前使っておりましたホットメールとはアドレスが異なっておりますのでご注意ください。新しくメールアドレスをつくられた方、以前はメールが届いていたのに最近届いていらいっしょらない方はお手数ですがこちら (hokudai_bajutsubu_2013@yahoo.co.jp) までご連絡ください。

私はもう1年主務をつとめさせていただくということで、来年はよりよい北大馬術部の運営のために力を尽くしていきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

《馬匹》

清 水 麻優美

6月14日にシュガーシャック号が、10月7日にチェルシー号が入厩し、8月21日にサクラロミオ号が、9月28日にラベンズウッド号が、9月18日にサクラロイヤル号が、11月30日にペリエ・E号が、11月8日にタフィー号が離厩しました。また6月21日にシュガーシャック号は鈴木重雄さんに去勢していただきました。去勢の際には間近での手術の見学を許可していただき、さらには睾丸の解剖学的な説明もして下さいました。お忙しい中本当にありがとうございました。

重度の疝痛やフレグモーネの際には川崎獣医師（ノーザンホースパーク）や野村獣医師（競馬場）などたくさんのOBの方々に助けていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

今年は優秀でやる気のある1年生が3人馬匹に入ってきており、定期的に勉強会をし、新しい治療法などを模索しています。至らぬ点はまだ多々ございますが、事故や怪我が無いよう精進してまいりますので、これからもよろしくお願いたします。

《作業》

杉 田 優

作業の主な仕事は馬備、物品、ビデオに分かれており、現在3人で運営しております。

今年はパドック作りや、北大ホースショーの準備なども行いました。パドック作りや大会準備の中で部員全員を動かさないといけない場面が多くありましたが、今年はその中で自分があたふたしてしまい作業の効率が下がってしまったり、先輩に怒られたりしてしまいました。しかし、その失敗の分、人間として成長できた気がします。OBの笹原さんが以前、「作業に入ってきた人を、責任を持って自分のすべきことをこなし、前向きに自分の出来ることを新たに取り組むことができる人に育てて行きたかった」と言われていました。来年は作業に入ってきた1年生に仕事だけでなく、この大事なことをリーダーとして教えていきたいです。また、今年作業全体でも新しいことを取り入れようと考えており、具体的には、野外障害の設置、袖の制作などを行っていきたいと思っています。これからもより良い馬術部をつくるため、冬は3人で、来年からは1年生を含めて一生懸命努力して参ります。

《会計》

寺 元 純

今年は収入が支出を上回ることができました。現在の馬術部の総資金は約320万円となっています。

2013年冬の馬運車横転事故により今年は馬の輸送を外部に委託していましたが、馬輸送費による支出は例年以下に抑えることができました。今後も部員数の更なる増加を目指すとともに、より余裕のある財政運営を心掛けていきたいと思っております。当部活の財政状況はまだ安定しているとはいえなため、OB・OGの方々には、馬術部の更なる発展のためにご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2014年 決算報告

収入

部費	1,270,000
モモセバイト代	630,000
フロンテアバイト代	1,051,125
メインフィールズバイト代	547,000
競馬場バイト代	1,823,817
セレクトセールバイト代	160,000
セクションセールバイト代	120,000
サマーセールバイト代	199,700
オータムセールバイト代	189,100
半澤杯収入	186,000
春自馬収入	575,000
秋自馬収入	594,400
北大ホースショー収入	41,000
全日 Part2 使役バイト代	301,320
体育会強化費	0
寄付	10,000
春休みノーザンバイト代	203,784
ポニーバイト代	149,705
白井牧場バイト代	67,790
北海道神宮バイト代	40,000
ノーザンバイト(秋)	179,784
飼育助成金	490,000
中曽根さんバイト代	64,000
選挙バイト	256,767
農場バイト代	318,600
その他バイト代	69,800
その他	66,268
計	9,604,960

支出

交通	483,494
広報	125,515
作業	685,558
車両	374,081
飼料	2,579,058
装蹄	970,000
大会関係	1,754,130
通信	47,755
馬備	131,896
馬匹	105,207
ビデオ	54,014
物品(衛生)	24,170
物品(備品)	114,986
薬品	182,544
犬猫	44,371
平日バイト	27,500
その他	453,057
計	8,157,336

◆ 2014年度 戦績 ◆

●第42回 半澤杯記念馬術大会 (於:北海道大学 5月6日~7日)

☆80cmクラス障害飛越競技(小池杯)

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	松井 亮	スタークイン	メインフィールズ	0	53.25
2位	松井 亮	ハンクワイラ	メインフィールズ	0	54.75
3位	発田 愛美	ビューテンブ	札幌龍谷学園高校	0	55.22
9位	佐治 ひな子	北菓	北海道大学(2)	0	58.10
10位	東谷 貴	北菓	北海道大学(4)	0	58.19
12位	中 一輝	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	59.97
18位	小山 寛	北魁	北海道大学(4)	0	64.29

☆60cmクラス障害飛越競技(井上杯)

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	大石 岳人	北菓	JRA函館競馬場	0	54.03
2位	大村 侑己	ラベンズウッド	北海道大学(2)	0	60.94
3位	萬浪 大輔	フラカン	酪農学園大学	0	61.44

☆クロスバー飛越競技

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	佐藤 駿太	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	0	55.66
2位	風林 優和	ジーティーボス	札幌乗馬スポーツ少年団	0	61.50
3位	小川 舜介	ジーティーボス	札幌乗馬スポーツ少年団	0	61.78
8位	笹原 良平	タフィー	北海道大学(4)	13	100.47

●第28回 北海道新緑馬術大会 (於:ノーザンホースパーク 5月10日~11日)

☆標準小障害A

順位	騎手	馬名	所属	減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	舟田 亮太	駿麗	酪農学園大学	0	0	36.08
2位	鈴木 重雄	フルオブワンダー	モモセRF	0	0	39.29
3位	鈴木 亜依	フルオブワンダー	モモセRF	0	0	40.58
2反E	小山 寛	北魁	北海道大学(4)			
3反E	小山 寛	北魁	北海道大学(4)			

☆標準小障害C Part1

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	萬浪 大輔	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	0	59.49
2位	松下 奈穂	レオポルド	ほくせい乗馬クラブ	0	61.70
3位	舟田 亮太	フラカン	酪農学園大学	0	64.69
6位	松井 亮	ハンクワイラ	メインフィールズ	4	61.39
7位	東谷 貴	北菓	北海道大学(4)	4	62.74
8位	大村 侑己	北菓	北海道大学(2)	4	64.24
11位	中 一輝	北菓	北海道大学(2)	7	78.54
経路E	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)		
経路E	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)		

☆標準小障害B Part1

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	伊村 晶子	咲良	オーフルホースコミュニ	0	58.59
2位	岡 睦	アランプロスト	ほくせい乗馬クラブ	0	61.04
3位	川合 達啓	ゴーステディ	ノーザンホースパーク	0	61.94
10位	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)	6	74.14

☆ステップアップジャンピング60

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	松井 亮	スタークイン	メインフィールズ	0	49.79
2位	佐藤 仁昭	マイネルエスケープ	ほくせい乗馬クラブ	0	53.79
3位	酒井 優花	ミナミノゴージャス	静内農業高校	0	54.49
2反E	大村 侑己	ラベンズウッド	北海道大学(2)		

☆標準小障害B Part2

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	田中 恭子	アランプロスト	ほくせい乗馬クラブ	0	53.34
2位	片桐 剛司	ラ・ヴァレ	ノーザンファーム	0	56.04
3位	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)	1	69.24

☆標準小障害C Part2				減点	タイム
1位	萬浪 大輔	マキシマムプレイズ	酪農学園大学	0	55.39
2位	平岡 理香子	サンデーフラッパー	モモセRF	0	56.49
3位	深田 恭子	駿宝	酪農学園大学	0	57.39
7位	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	61.59
11位	小山 寛	北魁	北海道大学(4)	7	75.19
2反E	大村 侑己	ラベンズウッド	北海道大学(2)		

●第53回 全国七大学総合体育大会馬場馬術競技
(於:京都大学 6月7日~8日)

第1位	東北大学
第2位	京都大学
第3位	名古屋大学
第4位	東京大学
第5位	北海道大学

●第49回 北海道春季馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 6月13日~15日)

☆標準小障害C Part1)

				減点	タイム
1位	大村 侑己	北魁	北海道大学(2)	0	67.44
2位	本間 飛鳥	ライキリレガシー	静内乗馬スポ少	0	68.84
3位	藤春 加奈子	ピース	白井牧場不二ファーム	0	70.14

☆標準小障害B Part1

				減点	タイム
1位	田中 恭子	アランプロスト	ほくせい乗馬クラブ	0	67.84
2位	畠山 朋弘	ダンデライオン	三木田乗馬学校	0	76.94
3位	ゴンサロ・アルバレス	プリンシパリティ	モモセRF	4	67.39
7位	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	69.14
13位	中 一輝	北菓	北海道大学(2)	10	82.39
2反E	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)		

☆標準小障害A

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	橋本 英之	ウインドライアン	新冠乗馬スポ少	0	0	38.89
2位	檜岡 定雄	ピンカートン	中村宏厩舎	0	0	39.69
3位	近藤 直人	ミラクルパワー	浦河高等学校	0	0	40.14
18位	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)	14		
19位	小山 寛	北菓	北海道大学(4)	15		

☆標準中障害D

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	早坂 淳	ミラクルパワー	JRA日高育成牧場	0	0	54.84
2位	伊村 晶子	咲良	オーフルホースコミュニン	0	落馬E	
3位	白井 岳	アミュレット	白井牧場不二ファーム	0	棄権	
10位	東谷 貴	北焔	北海道大学(4)	7	97.44	
2反E	東谷 貴	北魁	北海道大学(4)			

☆中障害D S&H

				タイム
1位	鈴木 亜衣	フルオブワンダー	モモセRF	66.59
2位	日野 弘志	チェルシー	JRA日高育成牧場	75.49
3位	平岡 理香子	サンデーフラッパー	モモセRF	91.29
9位	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)	128.84

☆標準小障害B Part2

				減点	タイム
1位	岡 睦	アランプロスト	ほくせい乗馬クラブ	0	61.64
2位	大熊 綾美	トーセンコックス	モモセRF	0	64.24
3位	萬浪 大輔	マキシマムプレイズ	酪農学園大学	0	69.19
11位	中 一樹	北菓	北海道大学(2)	4	70.39
16位	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	8	65.44

●第86回 北日本学生馬術選手権大会
(於:北海道大学 7月13日)

北日本学生馬術選手権馬場馬術課目2000

予選Cブロック

順位	選手名	所属	得点率
1位	瀬戸 雄大	ログキャビン(北菓)	酪農学園大学 59.469
2位	小山 寛	ログキャビン(北菓)	北海道大学(4) 56.969
3位	永井 拓海	ログキャビン(北菓)	東北大学 54.847

予選Dブロック

順位	選手名	所属	得点率
1位	中津 裕太	ペリエ・E	北海道大学(3) 53.938
2位	東保 吉之助	ペリエ・E	北里大学 53.181
3位	磯 匠	ペリエ・E	帯広畜産大学 51.060

準決勝Aブロック

順位	選手名	所属	得点率
1位	佐藤 燎	マキシマムプレイズ	岩手大学 56.817
2位	中津 裕太	マキシマムプレイズ	北海道大学(3) 56.363
3位	及川 恭平	マキシマムプレイズ	帯広畜産大学 54.545

準決勝Bブロック

順位	選手名	所属	得点率
1位	瀬戸 雄大	タニノエタニティ	酪農学園大学 59.545
2位	東保 吉之助	タニノエタニティ	北里大学 56.439
3位	舟田 亮太	タニノエタニティ	酪農学園大学 55.605
4位	小山 寛	タニノエタニティ	北海道大学(4) 54.242

障害飛越競技 決勝

順位	選手名	所属	減点	タイム	総得点
1位	瀬戸 雄大	ドラゴンアロー	酪農学園大学 10	69.59	115.667
2位	東保 吉之助	ドラゴンアロー	北里大学 23	73.92	94.500
3位	中津 裕太	ドラゴンアロー	北海道大学(3) 43	93.54	81.167

結果

1位	瀬戸 雄大	酪農学園大学
2位	東保 吉之助	北里大学
3位	中津 裕太	北海道大学(3)
4位	佐藤 燎	岩手大学
5位	舟田 亮太	酪農学園大学
6位	及川 恭平	帯広畜産大学
7位	小山 寛	北海道大学(4)
8位	菅野 俊太郎	東北大学

※5位まで権利獲得

●第50回 北日本学生馬術女子選手権大会
(於:北海道大学 7月13日)

全日本学生馬術連盟制定

北日本学生女子選手権馬場馬術課目2000

予選Aブロック

順位	選手名	所属	得点率
1位	平野 優	マキシマムプレイズ	酪農学園大学 55.530
2位	佐藤 詩織	マキシマムプレイズ	北海道大学(4) 50.908
3位	設楽 みさき	マキシマムプレイズ	岩手大学 47.651

予選Dブロック

順位	選手名	所属	得点率
1位	田畑 風華	マルカシリウス	東北大学 50.227
2位	山下 美菜	マルカシリウス	帯広畜産大学 48.333
3位	高橋 春南	マルカシリウス	北海道大学(1) 47.120

準決勝Bブロック

順位	選手名	所属	得点率
1位	平野 優	ピュアメモリー	酪農学園大学 47.423
2位	伊藤 円	ピュアメモリー	酪農学園大学 47.045
3位	佐藤 詩織	ピュアメモリー	北海道大学(4) 44.923

障害飛越競技 決勝				減点	タイム	総得点
1位	平野 優	ウォーターボーイズ	酪農学園大学	15	66.35	103.667
2位	伊藤 円	ウォーターボーイズ	酪農学園大学	経路E		-380.000
3位	氏家 由伽理	ウォーターボーイズ	帯広畜産大学	経路E		-380.333

結果		
1位	平野 優	酪農学園大学
2位	伊藤 円	酪農学園大学
3位	氏家 由伽理	帯広畜産大学
4位	山下 美菜	帯広畜産大学
5位	阿部 佳代子	岩手大学
6位	佐藤 詩織	北海道大学(4)
7位	田畑 風華	東北大学
8位	横山 くるみ	北里大学

※6位まで権利獲得

●第61回 北海道体育大会
兼 第69回国民体育大会馬術競技北海道ブロック大会
(於:ノーザンホースパーク 7月26日~27日)

☆総合馬術競技2スターA 馬場馬術課目2009 Part2				得点率
1位	及川 恭平	柏楓	帯広畜産大学	56.206
2位	舟田 亮太	テノリオ	酪農学園大学	54.137
3位	奥井 達也	駿天狼	酪農学園大学	48.735
棄権	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	

☆標準小障害A				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	0	0	42.39
2位	早坂 淳	チエルシー	日高育成牧場馬術部	0	4	37.54
3位	若松 勇太	フェットウデメゾン	ノーザンホースパーク	0	7	58.14
23位	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)	24		

☆標準中障害D				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	樽岡 定雄	ピンカートン	中村宏厩舎	0	0	36.89
2位	鈴木 重雄	フルオブワンダー	モモセRF	0	0	40.72
3位	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	0	0	43.38
6位	東谷 貴	北魁	北海道大学(4)	0	8	40.79
落馬E	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)			
2反E	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)			
2反E	東谷 貴	北菓	北海道大学(4)			
棄権	小山 寛	北焰	北海道大学(4)			

☆標準中障害C				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	小山 寛	北焰	北海道大学(4)	0	8	41.49
2位	白井 岳	アミュレット	白井牧場不二ファーム	0	2反E	
3位	松本 隆平	柏楓	帯広畜産大学	8		

☆標準小障害B Part1				減点	タイム	
1位	松井 亮	ハンクワイラ	メインフィールズ	0	64.39	
2位	藤本 哲也	ニキ・ラウダ	ほくせい乗馬クラブ	1	70.04	
3位	百瀬 利宏	エジソン	モモセRF	6	71.09	
12位	中 一輝	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	12	64.59	
落馬E	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)			
☆中障害D S&H				タイム		
1位	佐藤 直	レグルス	日高育成牧場馬術部	63.79		
2位	野澤 克彦	リッキー	日高育成牧場馬術部	64.39		
3位	大林 利弘	バルタザール	日高育成牧場馬術部	65.94		
棄権	東谷 貴	北魁	北海道大学(4)			
☆中障害C S&H				タイム		
1位	若生 五月	トーセンコックス	モモセRF	74.79		
2位	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	75.19		
3位	田口 貴也	ジゴロ	早来エクワインファーム	84.59		
棄権	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)			
☆ダービー競技				タイム		
1位	檜岡 定雄	ピンカートン	中村宏厩舎	99.24		
2位	広瀬 祥吾	ホワイトマーブル	チェスナットファーム	107.94		
棄権	東谷 貴	北菓	北海道大学(4)			
☆標準小障害A Part2				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	土井 綾人	カイエン	静内農業高等学校	0	0	38.04
2位	中原 捷伍	プライドエンブレム	こいかっぷホロシ乗馬クラブ	0	0	40.64
3位	渡邊 純也	サクラハウジュ	静内農業高等学校	0	0	40.79
2反E	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)			
☆標準小障害B Part2				減点	タイム	
1位	早川 魁人	スマレ	静内農業高等学校	0	50.89	
2位	鎌田 彩楓	ブライトガスター	ライディングファーム・フセ	0	51.19	
3位	佐藤 彩恵	サクラハウジュ	静内農業高等学校	0	53.74	
6位	高橋 春南	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	0	55.74	
☆標準小障害C Part2				減点	タイム	
1位	横山 奈々	インティライミ	ノーザンファーム	0	54.74	
2位	渡邊 怜平	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	0	56.59	
3位	松井 亮	スタークイン	メインフィールズ	0	57.09	
●第39回 北海道馬術大会 (於:ノーザンホースパーク 8月9日~10日)						
☆標準小障害C				減点	タイム	
1位	荻野 将一	グレンキースJ	中村宏厩舎	0	61.24	
2位	松井 亮	スタークイン	メインフィールズ	0	70.74	
3位	栃彦 理公	フサイチホウオー	モモセRF	8	69.24	
☆標準小障害B				減点	タイム	
1位	津田 サマンサ	ビッグレッド	ノーザンファーム	0	61.84	
2位	水沼 功	ジョニーハーバード	ほくせい乗馬クラブ	0	63.44	
3位	森 和博	アランプロスト	ほくせい乗馬クラブ	0	64.29	
13位	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	18	90.19	
2反E	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)			
☆標準小障害A				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	吉田 楓	ブライトガスター	ライディングファーム・フセ	0	0	45.89
2位	若松 勇太	フェットウデメゾン	ノーザンホースパーク	0	0	46.64
3位	吉田 楓	メニーアワード	ライディングファーム・フセ	0	0	47.34
5位	中 一輝	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4		
2反E	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)			
棄権	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)			

☆標準中障害C Part1				減点	タイム
1位	梁川 正重	クラリッサ	早来エクワインファーム	0	65.22
2位	梁川 正重	ケリードケリーダ	早来エクワインファーム	8	68.99
3位	岡 俊作	慶湊	ノーザンホースパーク	9	71.74
2反E	東谷 貴	北魁	北海道大学(4)		

☆標準小障害C Part2				減点	タイム
1位	斉藤 椎奈	フリーデンスクイン	ノーザンファーム	0	55.49
2位	酒井 優花	スマレ	北海道静内農業高等学校	0	61.09
3位	横山 奈々	インティライミ	ノーザンファーム	0	61.34
11位	松井 亮	スタークイン	メインフィールズ	5	76.49

☆標準小障害B Part2				減点	タイム
1位	小川 諒子	スマレ	北海道静内農業高等学校	0	59.29
2位	津田 サマンサ	ビッグレッド	ノーザンファーム	0	60.24
3位	田中 恭子	アランプロスト	ほくせい乗馬クラブ	0	60.74
10位	松井 亮	ハンクワイラ	メインフィールズ	4	71.44
15位	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)	11	83.79

☆小障害A S&H				タイム
1位	平野 優	駿劉	酪農学園大学	67.94
2位	岡 睦	ジョニーハーバード	ほくせい乗馬クラブ	74.64
3位	岡 俊作	マクロ	ノーザンホースパーク	77.54
11位	中 一輝	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	92.44
棄権	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)	

☆中障害C S&H				タイム
1位	梁川 正重	ケリードケリーダ	早来エクワインファーム	73.34
2位	宮永 美寿津	サニーHV	ノーザンホースパーク	79.14
3位	檜岡 定雄	キャラメロG	中村宏厩舎	79.89
8位	東谷 貴	北魁	北海道大学(4)	110.62

☆総合馬術競技2スターA馬場馬術課目2009				得点率
1位	楠木 貴成	フェアバンクスカーゴ	ノーザンホースパーク	63.448
2位	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	55.057
3位	舟田 亮太	テノリオ	酪農学園大学	54.597
失権	東谷 貴	北菓	北海道大学(4)	

●第50回北日本学生馬術大会
(於:ノーザンホースパーク 8月27日~31日)

☆学生賞典障害飛越競技				1走目減点	2走目減点	合計減点
1位	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	8	8	16
2位	松本 隆平	柏桜	帯広畜産大学	4	16	20
3位	関口 美加	柏爵	帯広畜産大学	12	8	20
4位	小山 寛	北焔	北海道大学(4)	8	16	24
5位	舟田 亮太	テノリオ	酪農学園大学	12	12	24
6位	奥井 達也	駿天狼	酪農学園大学	12	12	24
7位	瀬戸 雄大	スラムティンガル	酪農学園大学	20	24	44
8位	佐藤 燎	レーヴェトワール	岩手大学	20	24	44
9位	平野 優	駿麗	酪農学園大学	20	28	48
2反E	横山 くるみ	雪嵐	北里大学	550	594	1144
2反E	福寿 晃	雪瑛	北里大学	554	598	1152
2反E	山口 洋	ブライト・オア	弘前大学	594	594	1188
2反E	松本 美寿	雪勇	北里大学	630	610	1240
棄権	陳 偉熙	杜煌	東北大学			

☆学生賞典総合馬術競技			馬場減点	耐久減点	余力減点	総減点	
1位	及川 恭平	柏楓	帯広畜産大学	67.587	4.0	8	79.59
2位	瀬戸 雄大	スラムテインガル	酪農学園大学	71.553	0.0	16	87.55
3位	鬼窪 峻大	柏輪	帯広畜産大学	66.725	0.0	32	98.72
4位	深山 琴子	エペレストクライマ	酪農学園大学	68.277	25.6	12	105.88
5位	山下 美菜	零	帯広畜産大学	68.450	20.0	24	112.45
6位	奥井 達也	騾天狼	酪農学園大学	68.795	20.0	24	112.79
7位	松本 隆平	柏桜	帯広畜産大学	69.140	72.0	0	141.14
耐久E	佐藤 燎	レーヴェトワール	岩手大学	69.657	0.0		
耐久E	小山 寛		北海道大学(4)	72.761	0.0		
耐久E	向井田 斉	ハヤチネ	岩手大学	90.692			
耐久E	磯 匠	柏海	帯広畜産大学	74.139			
耐久E	阿部 佳代子	グラスキッド	岩手大学	74.484			
耐久E	平野 優	騾劉	酪農学園大学	61.380			
耐久E	関口 美加	柏酔	帯広畜産大学	72.416			
余力2反E	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	66.899			
棄権	舟田 亮太	テノリオ	酪農学園大学	66.381			

☆小障害飛越競技A			減点	タイム	
1位	渡邊 怜平	騾天狼	酪農学園大学	8	59.59
2位	吉田 詩織	騾劉	酪農学園大学	9	70.45
3位	大塚 公貴	雪嵐	北里大学	11	80.29
2反E	中 一輝	チェリーアドミラル	北海道大学(2)		
2反E	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)		

☆障害飛越競技B			減点	タイム	
1位	山田 杏奈	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	0	58.04
2位	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)	0	58.84
3位	吉田 詩織	騾天狼	酪農学園大学	0	60.18
棄権	中 一輝	北魁	北海道大学(2)		

●第28回北海道秋季馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 9月27日~28日)

☆標準小障害A			減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム	
1位	若松 勇太	フェットウデメゾン	ノーザンホースパーク	0	62.34	0	48.34
2位	大熊 綾美	トーセンコックス	モモセRF	0	69.94	0	54.49
3位	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	0	64.44	4	47.64
11位	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)	7	84.24		
19位	高橋 春南	北菓	北海道大学(1)	23	85.94		
2反E	中 一輝	北菓	北海道大学(2)				
2反E	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)				

☆標準小障害C Part1			減点	タイム	
1位	遠藤 直進	パワフルショット	ノーザンファーム	0	61.04
2位	片岡 祐輝	パワフルショット	ノーザンファーム	0	63.24
3位	小澤 加奈子	ラブニセン	白井牧場不二ファーム	0	63.59
7位	松井 亮	スタークイン	メインフィールズ	4	61.19
2反E	中 一輝	北魁	北海道大学(2)		
落馬E	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)		
落馬E	中 一輝	北魁	北海道大学(2)		

☆標準小障害B Part1			減点	タイム	
1位	及川 恭平	アッチャン	帯広畜産大学	0	56.29
2位	水沼 功	ジョニーハーバード	ほくせい乗馬クラブ	0	59.59
3位	小澤 加奈子	ラブニセン	白井牧場不二ファーム	0	62.14
16位	松井 亮	ハンクワイラ	メインフィールズ	8	60.45

☆ステップアップジャンピング			減点	タイム	
1位	御厨 蓮	ジャスミンカラー	ノーザンファーム	0	55.74
2位	前田 裕也	ジャスミンカラー	ノーザンファーム	0	56.04
3位	鴻丸 未歩	スマレ	北海道静内農業高等学校	0	59.64
11位	寺元 純	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	1	75.09
12位	寺嶋 伊武樹	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	1	75.69

☆小障害A S&H				タイム	
1位	平野 優	駿劉	酪農学園大学	60.59	
2位	高橋 春南	ラベンズウッド	北海道大学(1)	69.38	
3位	川島 純子	マスターベスト	白井牧場不二ファーム	69.94	
14位	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	99.24	
2反E	中 一輝	北菓	北海道大学(2)		
☆中障害D S&H				タイム	
1位	若松 勇太	フェットウデメゾン	ノーザンホースパーク	63.59	
2位	加藤 結	キタサンガッツ	にいかっぷホロシ乗馬クラブ	65.54	
3位	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	67.24	
☆標準小障害B Part2				減点	タイム
1位	小澤 加奈子	ラブニセン	白井牧場不二ファーム	0	60.49
2位	川合 達啓	ゴーステディ	ノーザンホースパーク	0	65.79
3位	奥井 達也	駿劉	酪農学園大学	0	66.34
5位	中津 裕太	北藍	北海道大学(3)	0	74.04
7位	松井 亮	スターケイン	メインフィールズ	4	65.07
☆標準小障害C Part2				減点	タイム
1位	斉藤 椎名	フリーデンスクイン	ノーザンファーム	0	56.74
2位	片桐 剛司	キングクリムソン	ノーザンファーム	0	63.44
3位	舟田 亮太	ディアブラスト	酪農学園大学	0	68.09
9位	中 一輝	北魁	北海道大学(2)	4	69.44
●第34回 山下杯・河田杯記念馬術大会 (於:酪農学園大学 10月5日)					
☆第2競技 小障害A				減点	タイム
第2位	高橋 春南	北菓	北海道大学(1)	0	57.56
第3位	中 一輝	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	68.81
第4位	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	9	74.72
☆第4競技 ステップアップジャンピング				減点	タイム
第1位	本丸 尚人	北菓	北海道大学(1)	0	58.16
第2位	水沼 華奈子	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	4	57.41
第3位	上谷 丹里	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	8	66.50
☆第6競技 ジムカーナ				タイム	
第4位	中 一輝	ワッフル	北海道大学(2)	98.72	
●北大馬術部主催交流戦 (於:北海道大学 10月19日)					
☆第1競技 ジムカーナ					
3反E	香野 由夏	ピュアメモリー	北海道大学(1)		
☆第2競技 クロスバー					
落馬E	佐治 ひな子	ピュアメモリー	北海道大学(2)		
☆第4競技 60cmクラス				減点	タイム
第1位	得地 菜摘	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	0	47.08
第2位	堅田 宏樹	北菓	北海道大学(1)	0	50.71
第4位	工藤 雅子	ペリエE	北海道大学(1)	0	58.59
第5位	松尾 朱実	ペリエE	北海道大学(1)	0	64.10
第6位	杉田 優	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	4	46.40
第7位	岸本 真琴	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	4	53.70
第5競技 80cmクラス				減点	タイム
第1位	上谷 丹里	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	0	48.20
第8位	寺嶋 伊武樹	北菓	北海道大学(1)	4	48.24
第6競技 100cmクラス				減点	タイム
第1位	寺元 純	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	0	45.17
第3位	高橋 春南	北菓	北海道大学(1)	0	53.04
第4位	佐治 ひな子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	8	47.72

●全日本学生馬術大会

(於:三木ホースランドパーク 10月31日~11月5日)

☆学生賞典障害飛越競技

順位	騎手	馬名	所属	1走目減点	1走目タイム	総減点	総タイム
第1位	原 名月	キャットウィーズLB	関西大学	4	75.90	4	152.55
第2位	吉田 なな美	L	福井工業大学	0	77.51	4	153.95
第3位	香田 彬彦	ガルビーノM	明治大学	8	71.36	8	146.65
第44位	瀬戸 雄大	スラマティンガル	酪農学園大学	48	75.78	80	152.39
E	舟田 亮太	テノリオ	酪農学園大学	16	71.48		
E	関口 美加	伯爵	帯広畜産大学	13	79.52		
E	奥井 達也	駿天狼	酪農学園大学	E			
E	小山 寛	北焔	北海道大学(4)	E			
E	中津 裕太	北創	北海道大学(3)	E			
E	松本 隆平	柏桜	帯広畜産大学	E			

☆学生賞典馬場馬術競技

順位	騎手	馬名	所属	得点率
第1位	沖廣 諒一	桜憧	日本大学	65.075
第2位	中村 幸喜	明紫	明治大学	62.750
第3位	桐原 智	ヴァルゴ	京都産業大学	61.600
第34位	平野 優	駿春	酪農学園大学	53.416

☆学生賞典総合馬術競技

順位	騎手	馬名	所属	調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
第1位	渡邊 瑞生	桜覇	日本大学	51.4	0.0	0.0	51.4
第2位	五十嵐 裕哉	稲隆	早稲田大学	54.4	0.0	4.0	58.4
第3位	菅原 権太郎	レジャンプール・トウリア	日本大学	56.9	0.0	4.0	60.9
第17位	鬼窪 峻大	柏輪	帯広畜産大学	69.0	0.0	33.0	102.0
第23位	舟田 亮太	テノリオ	酪農学園大学	71.9	30.8	12.0	114.7
第25位	深田 琴子	エベレストクライマ	酪農学園大学	70.2	29.6	25.0	124.8
E	及川 恭平	柏楓	帯広畜産大学	65.7	50.4	E	
E	山下 美菜	霧	帯広畜産大学	68.8	38.0	E	
E	瀬戸 雄大	スラマティンガル	酪農学園大学	75.5	E		
E	磯 匠	柏海	帯広畜産大学	75.2	E		

●第54回北日本学生馬場馬術定期新人戦

(於:東北大学 11月23日)

☆予選Cブロック

騎手	馬名	所属	得点率
松尾 朱実	杜煌	北海道大学(1)	34.265
香野 由夏	キャプテンピサ	北海道大学(1)	43.382
工藤 雅子	杜秋	北海道大学(1)	41.029

予選Cブロック2位

※上位1位が決勝進出のため予選敗退

●第36回国立大学対抗馬術大会

(於:群馬県馬事公苑 12月6日)

☆予選Cブロック

騎手	馬名	所属	減点	タイム
佐治 ひな子	グレードアップ	北海道大学(2)	128	110
高橋 春南	群青藍	北海道大学(1)	108	110

予選Cブロック3位

※上位1位が決勝進出のため予選敗退

●第86回 全日本学生馬術選手権大会
 (於:東京馬事公苑 12月20日~21日)
 予選Cブロック

		得点率	
大森 康平	ブルーデザフィーオ	明治大学	61.136
林 貴秋	ブルーデザフィーオ	大阪府立大学	58.636
東保 吉之助	ブルーデザフィーオ	北里大学	55.227
中津 裕太	ブルーデザフィーオ	北海道大学(3)	51.363

※上位2名が決勝進出のため予選敗退

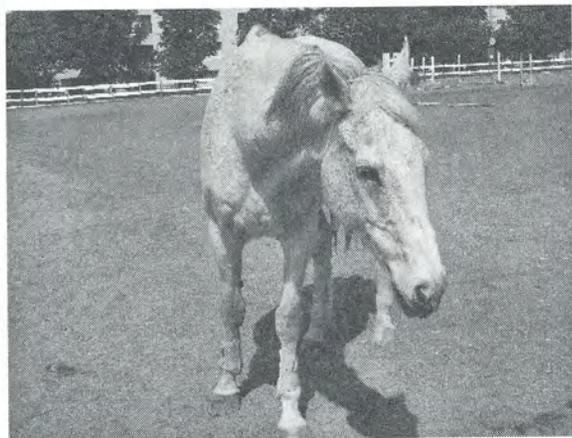
●第50回 全日本学生馬術女子選手権大会
 (於:東京馬事公苑 12月20日~21日)
 予選Bブロック

		得点率	
桐原 智	聖芳	京都産業大学	58.484
古郷 真里依	聖芳	大阪府立大学	53.408
佐藤 詩織	聖芳	北海道大学(4)	52.348
小西 みのり	聖芳	神戸大学	20秒E

※上位2名が決勝進出のため予選敗退

調 教 報 告

◆チェリーアドミラル号◆



セン サラ 芦毛
様似郡様似町川辺牧場産
父 サクラユタカオー
母 チェリーユミコ
平成22年8月1日入厩

本 丸 尚 人

北大馬術部に入部して、初めてサブとしてつかせていただいた馬がチェリーであり、9月からはチーフとしてチェリーの馬体管理をさせていただくことになりました。チェリーの運動について、未熟な自分が考えるには至らなかったため、9月になるまでチーフを務めていらっしゃった先輩から教えていただいたお話が中心になると思います。

チェリーのチーフをさせていただくにあたって、この1年間を通しての目標は、1年生が待っているだけで障害を跳んでくれる状態を維持することと、高齢などからくる馬体の容態が悪化することを防ぐことであったと思います。チェリーはすでに練習馬として出来上がっている馬なので、その状態を維持し、かつ1年生が乗ったことでわずかに崩れていく状態を整えることが必要だったと思います。そのためには、まず馬をしっかり動かすこと、障害の飛越にあたっては余計な動きをして馬の動きの邪魔にならないようにすること、この2つを中心に考えながら運動を行いました。それぞれの運動でも目的を設定するようにし、例えば輪乗りでは、内方姿勢を取らせることで馬を少しでも丸めようと試みましたが、チェリーの場合、体が硬いためなかなか上手く丸まった状態に持っていくことができませんでした。6月あたりから8月までは1年生を乗せて調馬策を回すことが多かったのですが、その際には脚への負担を減らすためなるべく大きな円を描くこと、前に出ていないと意味がないのでしっかりと前に出すこと、この2点をまず考えるように運動を行いました。高齢のためか馬休日の次の日などは元気がよいのですが、週末になるにつれて次第に元気がなくなってしまいうこともありました。そのため、そのようなときには金曜日などに休みを取らせたり、外乗に行かせることで常歩のみの日をつくったりして元気を取り戻せるように

しました。

また、9月に入ってから1年生の初めての試合へ向けての練習馬としてそれ以前より活躍してもらいました。部班だけではなく100cm程度なら1年生が待っているだけでも安定して跳んでくれる馬で、秋自馬や北大ホースショーなどでも問題なく帰ってきてくれる健気さを見せてくれました。ただ、もともと1年生の数に対して1年生が乗ることができる馬が少なかったことに加え、高齢などの止むを得ない理由で離厩してしまった馬が多く、運動しなければならない日が多かったこと、また先ほども述べたように1年生でも経路を回ってこられる馬が少なく、特に試合前は何度も障害を跳ばせてしまったことで以前から痛めていた腰や背中に負荷がかかってしまったかもしれません。

チェリーは高齢のため腰や背中の筋肉が下がっており、1年生の練習馬として乗られていたこともあって腰を痛めているようだったので、ネックストレッチを付けての運動や装鞍の際にゲルを用いることで馬を丸めて背中を伸びるようにし、腰に負担がかからないようにしました。春から秋にかけての暖かい日には温浴も取り入れることで筋肉をできるだけほぐしてあげられるように努めました。チェリーは練習だけでなく手入れの際も優秀で、いつも大人しく個人的にはとても助かりました。

本来ならば鞍数を減らすなどの方策をとることがベストなのかもしれませんが、現状では練習馬が少なくそれは難しい状況です。高齢ということもありあまり負担はかけられないのですが、チェリーほど1年生が乗っても安定して動いてくれる馬は今の北大にはいません。今年の1年生、そして来年の1年生のためにもチェリーにはもう少し頑張ってもらわなければなりません。自分自身まだまだ未熟で馬のことは全くと言っていいほどわかっていませんが、先輩方やOB・OGの方々などから運動の方法や馬体管理の仕方など学ばせていただくことで、チェリーにかかる負担が最低限ですむようにできればと思います。

◆ピュアメモリー号◆



牝 サラ 栗毛
平成14年3月12日生
北海道沙流郡門別町産
父 マヤノトップガン
母 ミルメモリーズ
平成25年4月13日入厩

佐 治 ひな子

私がピュアの担当となったのは今年の九月からだだが、その間の馬体管理と、調教について述べたいと思う。

まず馬体管理についてだが、ピュアは蹄が悪く、4月ごろからだんだんと広がっていた左前肢、左後肢の裂蹄は、秋にはかなりひどい状態だった。装蹄師の多田さんに聞いたところ、マメ科などの植物に多く含まれるセレン中毒かもしれないと言われたが、今年特に飼いの量を増やしたというわけでもなかったもので、飼いの量は変えずに様子を見ることにした。左後ろのみ、特にひどかったため、樹脂のようなもので埋めてもらった。12月の今、9月と比べ広がっているわけではなく、蹄も伸びてきたので、雪解け頃には治るだろうと思う。また、馬房のなかで怪我をすることが多く、春は特に管より下に、毎週のように擦り傷を作っていたので、夜は輸送用肢巻きで保護している。これを始めてから傷を作らなくなった。

これは、馬体面と同時に調教面にも関係するが、ピュアは左前の蹄だけが極端に起きていて、左肩の可動域が右に比べてかなり小さい。そのため、駢歩も左手前がなかなか出ず、左を出そうとして右手前が出てしまうことが多かった。駢歩発進後も、右は伸びのいい駢歩をするが、左は左前肢が前に出ないため少し小さい駢歩になる。これは蹄のせいかどうかはわからないが、輪乗りなどで、内包姿勢を求めるとき、右は柔らかく、とりやすいのだが、左は肩を内側に突っ張ってなかなかいい状態にもっていくことができなかった。駢歩発進のときは、内包姿勢をとらせて、少し馬の顔が内

側を向いた状態で発進合図を送ること、右手前が出てしまったときは、すぐ速歩常歩に落として、馬に間違いだったと分かりやすいような扶助を送ること、正しく左手前が出たら、まずは続けてよく愛撫すること、などに気を付けて乗るようにした。左内包姿勢はとるのが難しいが、内方脚で何とか内側に入ってこないようにし、少しだけ頭を左に向けて発進するようにした。これを毎日続けていくことによって、大分左駢歩も出るようになり、11月の雪が積もる前の時点では、下級生でも普通に左発進ができるようになった。

ピュアの障害飛越は、恐らくこれも左肩が上がりにくいためだろうが、あまり高い障害を跳ぶことはできないし、跳ぶこと自体を嫌がり、障害前で急に止まることが多い。私がピュアで障害を跳ぶ際に注意した点は、障害へのアプローチを考えることと、馬より先に人が前に跳んで馬の邪魔をするということがないようにすること、の二つだ。まず、アプローチだが、まっすぐ入ること、ただ速いだけの入りをしないことの二つに注意した。そして、初めは馬が自分から跳ぶことができるように余計なことをしないで障害に向かうが、一度止まったとき、二回目は必ず跳ばせる、という意識をもって練習した。ピュアで経路を回ることが何度かあったが、経路になるとまず人が気負ってしまい、完走できたことが少なかった。ピュアの場合、一つの障害を跳ぶ度に早くなってしまい、次を跳ぶ体制を作れないまま障害に向かい、避けたり、止まったりするということが、私が、待つておくことだけを考えていたため、跳ぶ瞬間に馬についていくことができず、引っ張って邪魔をしてしまっていたことが大きな要因だと思う。そのときの私は、まだ障害での姿勢ができていなかったため、ピュアの障害に向かう気を削ぐだけになってしまったが、冬の間の練習によって姿勢を確かなものにする事ができれば、来年度は人馬ともに成長することができるだろう。

◆北焔号（ファイアーマリオ）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成6年3月25日生
北海道白老町社台牧場産
父 トウショウマリオ
母 アンバーエルン
平成21年10月31日入厩

小 山 寛

北焔号の担当となっていた、7月（国体予選）～11月（全日本学生二回走行）までについて、書かせていただきたいと思います。

・運動内容について

マリオは高度に調教された馬でしたが、20歳と高齢であり、肢下が弱っていたため、「いかに下肢部に負担をかけずに馬体を良好な状態に維持するか」を念頭に入れて日々の運動を行いました。

運動は常歩にウェイトを置いていました。長手綱で、速歩になる直前の速度での常歩を長時間していました。（障害を飛越する時に使う上肢部の筋肉は速歩では鍛える事が難しく、活発な常歩か、駆歩での運動、障害飛越で特に鍛えられるので、より負担の少ない活発な常歩は高齢馬や肢下の弱い馬に勧められる運動であるそうです。）

・馬体のケア

肢元はかなり繊細であるため、馬体のケアには特に気を遣いました。運動後の水冷と、マッサージを毎日欠かさずしていました。マッサージは整体師（人間専門）の方に習ったのですが、硬直した筋肉を触って探し、指圧でほぐしていくという簡単なものでした。これによって動きのバランスがかなり改善されたと思います。また、毎日馬体をくまなく触る事で、馬体のわずかな変化も感じ取ることができました。

・試合

出場した試合は国体予選と、北日本学生、全日本学生です。

試合前の運動はなるべく短時間で、少ない飛越回数で最高のコンディションに持っていけるように注意しましたが、北日本学生では一日のうちに二回走行とも行われた

ため、かなりの負担がかかり、しばらく休養させなければなりませんでした。

それでも全日学では、ほぼ万全の状態に仕上がり、自信を持って臨むことができました。トレーニング競技もいい出来で、一走行目の10番障害までは本当にいいリズムで、無落下でした。しかし11番のトリプル障害のアプローチでバランスが前のめってしまい、拒止してしまいました。外回りの直線距離が長いコースを選択したため、バランスを起こしたまま向かわなければならない障害であり、完全に自分のミスでした。結果を残せず、申し訳ありません。

・終わりに

マリオは本当に注意力のある馬で、正しいバランスで向かえば、多少踏切が近かったり、遠かったりしても落下することはまずありませんでした。また、飛越後のバランスの戻りも良く、いい障害感覚が得られると思います。万全の状態で出場できれば、全日本学生においても全くひけをとらない素晴らしい馬です。この馬に乗せてもらえた事は、自分にとって最大の幸運でした。本当に感謝しています。

来年はもう21歳になりますが、マリオにはまだ活躍してもらわなければならないようです。せめて最後は華々しく引退させてあげられるよう、サポートしていきたいと思います。

以上で、北焔号の調教報告を終わります。ありがとうございました。

◆北葉号 (ログキャビン) ◆



セン サラ 栗毛
平成8年3月8日生
アメリカ産
父 Woodman
母 Great Christine
平成21年9月15日入厩

高橋 春南

今年の北日が終わってからログキャビンのチーフをさせていただいています。今は練習馬兼、競技馬という状態です。北日が終わってからのシーズンの間は、一年生の練習もしつつ、高めの障害も飛んでいました。練習では、高めの障害であっても安定して飛んでくれるので、人のバランスを意識することができます。また、斜め横歩などの馬場の動きも得意です。オールマイティーになんでもこなしてしまうので、鞍数が多くなりすぎて、体への負担が大きくならないように気を付けてみていかなければならないと思います。

脚反応があまり良いほうではなく、女子が元気よく動かすのが難しいように思いました。圧迫脚を使い、反応がなければ、打脚、鞭と早い判断で合図を切り替え、弱めていくと、徐々に反応は良くなりました。障害後は前にのめりやすく、人が前にもって行かれるとそのままずるずると走られてしまうので、できるだけ早い段階で、手綱ではなく人のバランスで馬を起こすことが必要です。

18歳と、もうそこまで若いわけではありません。最近、背中に慢性的な痛みがあり、爪の状態も良くないので、体のケアもしっかりしなくてはなりません。まだまだログについて知らないことが多いですが、北日総合で権利をとることを目標に頑張っていきたいと思います。

◆北魁号（トウカイフラッグ）◆



セン サラ 青鹿毛
平成14年4月16日生
新冠町長浜牧場産
父 ブライアンズタイム
母 トウカイティアラ
平成24年10月7日入厩

中 一 輝

まずお断りしておきますが、この調教報告は、調教報告というよりもフラッグに乗ったり日々の手入れを通したりした上での感想文という形になっています。理由としては9月の代替わり以後他の練習馬と一緒に部班でFWや障害の練習に取り組むようになり練習方法が他の馬と同一であること、また自分の技量や知識がまだまだであり中途半端なことを書くよりも素直な感想を載せた方が読み手の方に伝わりやすいと考えたからです。以上のことを踏まえたうえで読み進めて頂くと幸いです。

北日、秋自馬の反省

フラッグとの最初の関わりは8月の北日でした。諸事情により北日2,3週間前にLBクラスに出場ということが決まりました。先に結果から述べるとこの大会は散々なものでした。原因は100%乗り手にありました。フラッグは昨年全日学に出場し完走するなど能力的にはLBクラスなど楽に帰ることができる馬です。また自分自身もLAクラスを練習馬で帰ってきておりLBクラスへの挑戦は決して無謀なものではないと考えていました。しかしフレンドリーでは準備馬場で走られ、経路中では前に出すべきところで出せず、飛越中に手綱を引っ張り馬のやる気を削いでしまい、結果反抗され最後までまわることができませんでした。本番にいたってはウッドチップでまたもや走られ落馬、自分が怪我をして棄権という非常に悔しい結果になってしまいました。原因としては、まず馬に走られるのではと自分が委縮して、手綱を常に引っ張ってしまい馬が反抗してしまったこと、拍車が常に入ってしまったこと、シートバランスが悪く常に偏りがあったことなどが考えられます。

代替わり後の馬配決めでは、このような情けない結果であった自分がもう一度フ

ラッグに乗るというチャンスが与えられました。残りの夏休みの期間にある程度練習をしたとはいえ、依然不安を抱えたまま秋季大会を迎え、LCクラスに出場しました。フレンドリー及び一日目は先輩方のアドバイス（後退させ人に意識を向けさせる、手綱をしっかり持ち馬が自分の手の内に入るようにするなど）で走られることはなくなりましたがそれでも人が慌てたりなどして反抗、失権という結果でした。二日目はこれまでの反省もあり慌てて無我夢中で前に出すというよりも馬が跳びやすいリズムになるよう少し抑えるようにしました。その結果落下はありましたが帰ってくることはできました。しかし経路中最初は抑えることができても飛越後のバランスバックができていないため途中でどンドンペースが速くなり馬が前のめりになってしまうという課題が見つかりました。内容も決して誇れるものではありませんが、今まで失権続きであった自分には正直嬉しかったです。

下級生の騎乗

冒頭で述べたように、現在フラッグは他の練習馬と一緒に部班で日々の練習を行っています。また馬配の関係上、自分の練習だけではなく1年生の練習にも使うようにしています。前に全然出せていない、障害を跳ぶと走られるなど自分と同じ理由でなかなかうまくいかないことが多いですが、1年生の技術が向上したことや馬がある程度の人の手助けをしてくれるようになったことで、徐々にそのようなことも無くなりつつあります。元々繊細という馬ではなさそうなので、部班程度の練習なら問題ないと考えています。しかし障害を安易に止まる癖がつくなど下級生の練習で使うことによる弊害が出つつあるので、今後はその点にも注意しなければいけないと思います。

馬の状態

背中や腰などは障害練習が続くとかなり痛がります。そのため温浴やマッサージをできる限り行いケアに努めています。また蹄又腐乱に悩まされることが多かったので、装蹄師さんのアドバイスによりなるべく蹄を濡らさないようにしています。これまではほぼ毎日水で洗うなどしていましたが、その後の乾燥が足りないため蹄又腐乱が頻発すると言われてから、練習後などはタオルなどで汚れをふき取るのみにするなどしてなるべく乾いた状態が続くようにしています。また性格に関してはビビりのくせに人をなめがちです。それにストレスが溜まると噛みつきがひどくなる恐れがあります。特に運動量が減る冬は、僅かな時間でもいいので外に出すなど工夫が必要だと考えます。

今後の課題

冒頭の反省でも述べたように、まだまだ自分の技術は競技馬に乗るには足りず、よ

り一層の努力をしなければなりません。一方馬については、ただ跳ぶというレベルからもう一つ上がれるようにしたいです。トウカイフラッグというと

「ああ、とりあえず跳んでくれる馬か。」

「向けたら何とか跳ぶよね。」

「よくバーを落とすよね。」

などによく言われます。諸先輩たちのような技術があれば、そのような状態でも全日の権利を獲得することは可能だと思います。しかし自分の場合、技術にまだまだ自信がありません。またフラッグ自身も安定して全日に出場することができません。そこで、ただ走っている状態から脱するためハミ受けを意識してしっかりハミを味わうようにしています。ただ自分ひとりで行うには難しく、馬もそのような運動をあまりしてきていないため、中津兄に乗ってもらうなどして人も馬もハミ受けを学んでいます。また前進氣勢がないと前後の脚の動きがバラバラになってしまいます。そこまで軽い馬ではないため中途半端な推進では体の使い方が悪くなります。扶助を効果的に使うことで自然と馬のリズムが良くなっていきました。このような状態で少し広めのキャバレッティを行うとより動きが良くなるように感じます。この時、以前のように走られるのではと考えて体が強張ると馬に緊張が伝わりますし、扶助も弱くなります。そのためあくまで人はリラックスして乗ることを第一にしています。このことは一年の最初に習うことですがこのような基本を抑えていくのが一番の近道と考えるようにしています。このように主に馬場運動を中心に改善しています。この調教報告を書いているのが冬であるためそのような練習しかできないのも理由ですが、馬自体の飛越能力は申し分ないので障害間の動きの改善を行うのが必要ではと考えた結果でもあります。

以上がフラッグの調教報告です。OB・OGの方には本当に騎乗感想文という感じで物足りないかもしれません。後輩が読んでももっと効果的なトレーニングなどを知りたいと思うかもしれません。しかし自分が感じたことは正直に記載したので、日々の騎乗で出てくる悩みの解決に少しでも役立てばうれしいです。正直こんな状況で全日の権利がとれるのだろうかなど不安だらけですが、自分とフラッグを信じて日々努力していきます。

◆北創号（サクラスペリオール）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成13年4月9日生
北海道静内郡静内町産
父 サクラローレル
母 サクラヒーロー
平成18年6月24日入厩

中 津 裕 太

この1年間、北創（スペ）に対して調教と呼べるような調教をすることはできませんでした。平芳兄によって3年間調教され、全日でも十分戦えるレベルになったスペに対してできることはほとんどなく、できるだけ現状維持することだけを考えていましたが、現状維持ができるのではないかという発想自体が甘いものだったと思います。乗れば乗るほど悪くなるのを感じ、一向に良くなる兆候が見られませんでした。この原因は、平芳兄が部報に書いた基本的なことができていないということに尽きます。

- ・馬のメンタルの理解不足
- ・馬体管理の不十分
- ・基本的技術の不足

技術の不足は問題ですが、最初の2点に比べれば大きなものではなかったかと思えます。

ここからは1年間の流れを見ていきます。冬の間はほとんど常歩と放牧のみにとどめました。馬場が悪い状態ではスペに対してプラスになることができないからです。常歩だけでも筋力が極端に落ちるということはありませんでした。

馬場の雪が解けて運動をはじめようとした時に両前の状態が悪くなってしまい、さらに放牧中に背中に怪我をし、そのあとに鞍傷を作ってしまったのでかなり出遅れてしまいました。鞍傷に関しては馬体管理の不十分としか言いようがありません。この

時期には調馬索を中心に運動をさせていましたが、舌鼓などの扶助に対して次第に反応が悪くなりいつも強い扶助ばかりを使い、メンタルの理解が足りていませんでした。運動を始められるようになった7月の国体予選前に、平芳兄にフラットワークと障害を見ていただき、輪乗り中心の後輪駆動を意識したフラットワークとコンビネーションで、元のダイナミックな動きに戻るようとにかく動かして体をほぐすようにしました。しかし、動かし始めると腰を痛めてしまいました。この怪我はシーズンを通して治ることがなく、全日での棄権につながってしまいます。さらに、国体予選の準備馬場で雑な回転から馬が前のめりになったまま障害に向かってしまい、スぺに乗って初めて拒止されてしまいました。これは回転だけの問題ではなくスぺの大きな飛越にしっかりとついていくことができず、飛越の邪魔になっていたといったことなどの積み重ねが原因だと思います。

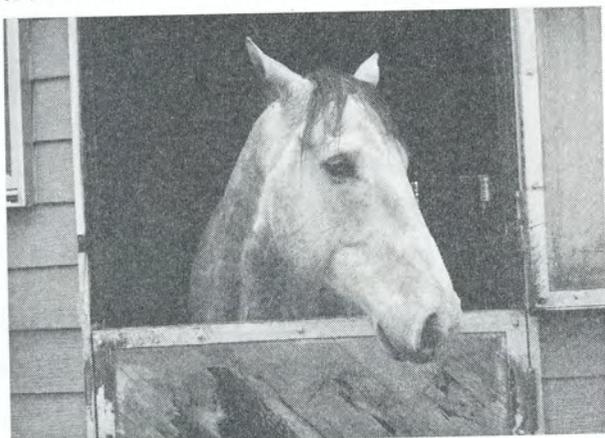
北日での結果は二走が優勝、総合は余力で失権でした。耐久までの結果はスぺに残っている貯金を切り崩して得た結果であって、余力はそれがほとんど残っていないギリギリの状態、基本的なことができているツケが回ってきたように思います。

北日後は腰の様子を見つつコンビネーションで130cm程度、バウンスで背中を使わせるといったことを週に1度くらい行い、少しずつスぺの運動のさせ方に慣れていった気がしていました。しかし、そこでも運動一つ一つの質が低く、今思えばマイナスの方向にしか向かっていませんでした。

全日では腰の疲労がピークに達していたものの、しっかり力を引き出せば二走で失権することはなかったと思います。

長々と反省を綴っただけになってしまいましたが、今年の結果は、最初に言ったように基本の不徹底の積み重ねによるものです。簡単なようで一番難しいのが基本で、今の北大馬術部が上を目指すのに必要なのは基本だけだと思います。自分に残された1年でできることは少ないかと思いますが、基本を忘れず結果を残せるよう努力していきます。

◆北驩号 (アップヒルティガー) ◆



セン サラ 芦毛
平成20年3月10日生
米国/R&R King Stable
父 Unbridled's Song
母 King Shooting Star
平成24年9月15日入厩

寺 元 純

北驩号 (以下アヒル) の馬責をしています、1年目の寺元です。

アヒルはこの1年間、主に平芳兄 (平成25年卒) と笹原兄 (平成26年卒) が調教してきました。馬責となる前の調教などに関しては、先輩からの話をもとに書かせていただきました。

2014年の春、笹原兄による調教が始まりました。

基本を大事に、単一障害やジムナスティックを行っていました。しかしその際、アヒルの長所である前向きな部分を生かすことができず、調教は思うように進みませんでした。

7月頃、現役では調教が難しいと判断し、平芳兄に調教をお願いしました。それ以降は平芳兄による調教が続いています。

このとき、馬がハミに向かわなくなっていたため、まずはハミに向かわせることから始めました。その後、ある程度調教が進むと、障害飛越を再開しました。

リラックスした状態で低い障害を数多く飛び、スローペースでのコース走行を毎日数回こなしていました。リラックスしてこれらをこなせるようになるとジムナスティック等を取り入れてバスキュールを改善していきました。

10月頃、アヒルの歩様に不安があったために、そこからはフラットワーク中心の運動としました。

冬季はフラットワーク中心の運動を続け、雪が解けてから本格的な調教を再開する予定です。

離 厩 報 告

◆タフィー号◆



セン 日本乗系種 栗毛
平成21年5月15日生
スターファーム産
父 男爵
母 ラビアンローズ
平成25年3月1日入厩

寺 元 純

タフィー号は昨年3月1日に、スターファームより入厩しました。5歳の若い馬で、1年間の借用契約をもつての入厩となりました。

タフィーは北大には珍しい日本乗系種であったため、競馬を経験していない馬でした。そればかりか、人間を上に乗せた経験もない全くの新馬としての入厩でした。

タフィーの新馬調教は笹原兄を中心として行われたと聞いています。鞍付け馴致から始まり、安定した速歩が続けられるまで相当な時間と手間がかかったそうです。タフィーは翌春入部する、つまり私たち1年生の練習馬としての使用を目指していました。笹原兄をはじめとする多くの先輩方の尽力のおかげで、5月には立派に使える馬となっていました。

タフィーは毎日安定して鞍数を提供してくれる、非常に優秀で丈夫な練習馬でした。タフィーがいたことで鞍数も増え、私たちの技術向上に大きく貢献してくれました。夏を過ぎた頃からは障害練習もこなせるようになりましたが、11月8日に借用期間満了のため離厩しました。

私がタフィーと関わったのはサブとしての2ヶ月、チーフとしての3ヶ月ほどしかありませんでした。しかし、多くのことを学ぶことができました。健康を管理し、維持することの重要性や難しさも学びました。また、馬とコミュニケーションをすることの大変さや、上手くなることの喜びも与えてくれました。

タフィー自身も、私が入部してからもどんどん成長を続ける馬でした。曳き馬調教や障害練習は、人馬共に上達していている実感をすることもできました。

多くを与え、学ばせてくれたこの馬が私たちに残してくれたものは何か。短い期間でしたが、タフィーが残してくれた物を今後の馬術部生活に還元していきたいと思えます。

◆北藍号（ビービーバンス）◆



牝 サラ 黒鹿毛
平成18年4月23日生
新ひだか町坂東牧場産
父 エイシンサンディ
母 エイシンデンバー
平成23年9月26日

中 津 裕 太

北藍号は競技馬を目指す新馬として3年間北大にいました。断続的に怪我をしてフレグモーネになってしまい、数週間調教が中断されるということが続いたこともあって、なかなか調教が進みませんでした。また、牝馬らしい牝馬で中途半端に強く当たったり、怒ったりすると逆にどんどん反抗したり嫌になってしまうため、乗っている時も乗っていない時も手間がかかってしまいます。このような精神的な難しさ、馬体管理面での難しさを考慮し、部馬として厳しいと判断して離厩させることにしました。

◆ペリエE号◆



セン 中半血 鹿毛
平成4年6月1日生
ベルギー産
父 BROWNBOY
母 EDELWEIS
平成25年6月入厩

上 谷 丹 里

ペリエ・E号は11月30日に旭川乗馬クラブに離厩しました。

ペリエは昨年〇月に〇〇より北大に入厩し、北日本学生馬術大会などで活躍しました。今年度は主に一年生の練習馬として、毎日コンスタントに三鞍程度提供し続けてくれました。全くの初心者に乗せての曳き馬から、一年目の駈歩や障害練習までこなしてくれる優秀な練習馬でしたが、高齢のため、惜しまれながらも離厩というかたちになりました。

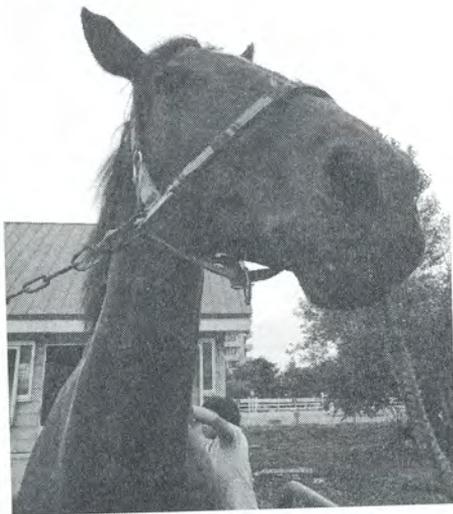
私がペリエに特に関わらせていただいたのは7月から11月末までと短い間でしたが、乗っているときもそれ以外でも、ペリエにはたくさんのことを教わりました。

一番大きいものは馬への愛情です。入部したての頃は、まだ右も左もわからない状態で、かなり危なっかしいこともたくさんやってしまっていました。そんな私の不手際にもペリエは忍耐強く付き合ってくれていたなと今になって思います。そんな性格でしたので、私はもちろん、部員は皆口をそろえてかわいいと評するほど愛されていました。

他にも、自分の不甲斐なさへの悔しさなどもペリエに教えてもらった感情の一つです。はじめの頃は一人では全く誘導できなくて本当に悔しい思いをしました。ですが、そのおかげで、もっとうまくなりたいという思いも大きくなっていきました。これは乗っているときだけに限らず、初めてチーフについた時もっと馬のことを考えられるようにならないといけない、強く感じました。

私はもらってばかりで、ペリエにしてあげられることがもっとたくさんあったのではないかと後悔する気持ちもあります。ですが、そばにいらなくても私を支えてくれるペリエに少しでも報いることができるよう、これからさらに努力していこうと思います。

◆ラベンズウッド号◆



セン サラ 鹿毛
1991年8月1日生
オーストラリア産
父 不詳
母 不詳
平成26年4月9日入厩

高橋 春南

今年の6月から、9月の秋自馬までチーフをさせていただきました。チーフといっても、私がウッドに教えてもらうことばかりで、私が馬の力を引き出すことができなかつたせいで、素晴らしい馬を離厩させることになってしまい、本当に申し訳なく思っています。

当初から、ウッドが入厩したのは今年の二走に使うためであり、その後どうするかははっきりと決まっていなかった状態だったので、今年で絶対に結果を出さなければ離厩することになるという大きなプレッシャーがありました。

ウッドは、北大に来る前は、県有馬として大障害を飛んでおり、その後農大でキングレジェンドという名前で活躍していました。そして、大浦さんのところに行ったのちに縁があり北大に来ることになりました。大浦さんのところでは、競技は引退して、もう運動はしていなかったらしく、体全体の筋肉が落ち始めていました。そのため、背中や肢のケアを入念にしながらの練習でした。

ウッドは、障害への前進氣勢が非常によく、障害を見るとまっしぐらに加速していくのですが、馬の調子を合わせられないと障害の根元でピタッと止まってしまう。単発ならどんな高さでも軽々と飛んでしまうのですが、コースになるとうまくいかないのです。飛ぶ能力は既にあるので、人の障害への持って行き方が問題でした。なぜ止まるのか、どのような時にウッドが飛びやすいのかは最後まで私の課題でした。

なかなかコースを完走することすらできず、二走の出場は断念し、北日はLA二反抗失権という結果でした。

やっと感覚をつかんだのは、離厩が決まった後の秋自馬の時でした。その直前にあった駒立合宿で自分の騎座を見直し、駒立乗馬クラブの和也さんのアドバイスで、それまでは、障害前は手を前に出し、なるべく馬の邪魔をしないように乗っていたの

ですが、障害前も手綱を持って、もっと強く乗るという乗り方に変えました。今まで考えてきた障害前で止まる原因を言ったところ、そんな複雑なことではなく、ただ単に馬の姿勢が前に倒れているせいで飛べないだけだと言われました。人が何かをしようと、すべて馬の邪魔になるように思っていたので、もっと強く乗っていいのだとはっとさせられました。当たり前のことですが、人が馬を飛べる状態にまでもって行って初めて馬の能力が引き出せるのだと気づかされました。馬に教えてもらうという意識ではなく、馬に教えるという意識で乗ることに決めました。合宿から帰って次の日に北大で80センチのコースを回り、その三日後から秋自馬で100のフレンドリー、LA、LAスピハン、そのままノーザンからウッドを旭川乗馬クラブに輸送という、最後はかなり盛りだくさんの一週間でした。

秋自馬の一日目のフレンドシップの100センチでは、前にのめってしまっていました。制御できなくなることはなく、満点で帰ってくることができました。これで、方向性に間違いはないと自信がつき、次の日のLAでは一位も目指せるのではないかと思いました。その本番のLAでは、バランスがフレンドシップのときより起きていて、リズムもよかったです。だんだんウッドのペースが速くなっていたのに気づかず、その流れのままダブルから角度のついた障害へ回り切れずに最終障害をよけてしまいました。完全に人が油断していました。それまでノーミスでタイムも良かったので本当に悔しかったです。もう本当に最後の最後のLAスピハンでは、速さよりも減点せずに小回りをするのを意識して臨みました。秋自馬の一日目から比べて、二日目、三日目と、だんだんバランスが起きてきていたので、スピハンの時には、コンタクトが軽く、コントロールがしやすい状態でした。絶対に大丈夫だという確信があり、ウッドが私の気持ちを分かっているかのように走ってくれました。結果は酪農の平野さんと駿劉号には及ばず2位でしたが、今までで一番の走行ができたと思います。これでウッドが歳のせいで飛べないわけではないということが証明できましたが、もっと早くウッドのことを分かってくれれば、と本当に悔やまれます。もっと上のレベルをウッドと目指したかったという思いもあります。

ウッドには、毎日どうやったら昨日よりよくなるかを考えさせられ、本気にさせられました。一年目の私が言うのは図々しいですが、一頭の馬に本気で向き合えた半年間は、一生忘れられないと思います。そして、たくさんアドバイスをくださった方々に感謝しています。毎日練習を見ていただいて、大会の時には夜遅くまで反省に付き合ってください、どんな結果でも私を励まして頑張らせてくれた梶山さんに、この場を借りてお礼申し上げます。

まだまだ書き残しておきたいことはたくさんありますが、最後に、たくさん経験をさせてくれて、馬術を真剣にやろうと思わせてくれたラベンズウッド、ありがとう。君のことは忘れません！また会える日を楽しみにしています。

◆北柁号（サクラロイヤル）◆



セン サラ 栗毛
平成13年4月9日生
北海道静内郡静内町産
父 サクラローレル
母 サクラユスラウメ
平成18年6月24日入厩

佐藤詩織

北柁号は、平成25年11月、日高道にて輸送中に馬運車横転事故により右腰角を陥没骨折しました。翌年夏まで回復を待ちましたが、平成26年9月に離厩の運びとなりました。

事故後、約4か月間馬房の中で安静にさせました。はじめは1歩も動かさず口の届く距離にある草を頑張っている様子だった彼も、時間が経つにつれ動きが増え、スムーズな動きをするようになっていきました。運動できないため疝痛や蹄葉炎を心配していましたが、そのようなトラブルはなく回復していってくれました。

3月末、雪が融けて地面が見えてきたころに、少しずつ曳馬を始めました。しかし跛行が酷く、これからある程度良くなったとしても競技馬としての復帰は難しい上、鞍数を稼ぐ必要のある練習馬としての働きも難しいだろうと判断し、離厩させることを決めました。この頃からは、離厩先の候補を増やすことを目的に馬のリハビリを行っていきました。

曳馬はなかなか大変な作業でした。というのも運動不足で気が張っているため、立ち上がる、蹴っ跳ねる、走り出すやらでも危険、馬も体を痛めないか不安な状態でした。基本的に2人曳きで、ハミをつけたり変えたり試してみましたが馬が暴れるのは抑えられず、度々危険を感じる場面もありました。まだ人の体重を乗せることには不安があったので4月いっぱい辛抱強く曳馬を続けました。

5月頃から騎乗しての常歩運動と、パドック放牧を始めました。乗っていると案外暴れることはなく、素直に動いてくれました。常歩を続けていくうちに少しずつ歩様は大きく滑らかになっていきましたが、ある程度良くなってからはほぼ横ばいで、骨格の歪みからくる跛行は治りそうにありませんでした。

道内の様々な乗馬クラブや観光牧場に頼んでみましたが引き取り先は見つからず、と殺や解剖という路線も真剣に考えましたが、結果的に旭川乗馬クラブを經由して養老牧場に引き取っていただくことになりました。紆余曲折あり、多くの方に迷惑をお掛けしてしまい申し訳ありませんでした。

私がロイヤルのチーフになったのは4月、丁度曳き馬を始めた頃からです。関わっていた時間は短かったのですが、他の馬との関わりからは得られない経験をすることができました。それは、命について考えることでした。しかしそれは精神的な苦しさでもありました。チーフになった時点で、酷な別れ方をする覚悟も決めておかなければならないと思ったのですが、その気持ちが先行して馬を好きになることにも抵抗がありました。別れがつらくなるからです。でも、世話をしていればやはり可愛くなるもので、それならば全力で好きになろう、と思いを切り替えました。純粹に馬と接していられた時間はとても楽しかったです。

ロイヤルが元気だった頃に関わっていたチーフの方々に比べたら、私はこの馬のことを何も理解していないかもしれません。ただ、これまでのこの馬を知らず、ただ1頭の馬として接したにすぎません。最後には、ただ、この1頭の馬がどういう立ち位置でこの部活に在るのか、それを考えました。それはそれで1つの考え方だと思うのです。

最終的にロイヤルは養老牧場に行くことになり、ほっとしました。救いの手を差し伸べて頂いたこと、本当に感謝しています。この馬について考え、悩み、涙した時間は徒労だったとは思いません。しかし、最終的に救えたものを殺しかけていたという事実に負い目を感じています。きっと、一生この思いを忘れることは無いと思います。将来動物の命に触れる仕事に就く上で、この気持ちと向き合い、命を軽視しないための教訓にしたいと思います。

書きづらい部分が多く、抽象的な書き方になってしまい申し訳ありません。以上を以て離厩報告とします。

◆北凜号（ネイチャーヒーラー）◆



セン サラ 栗毛
平成10年4月11日生
米国Mrs.Miles Valentine産
父 Valiant Nature
母 Mintullah
平成18年9月18日入厩

梶山 恭子

北凜号はこの度離厩致しましたので、ここにご報告させていただきます。離厩先は乗馬クラブメインフィールドです。

ネイチャーは北日でも活躍し、また大人しかったため、下級生の練習にも沢山使うことができ、私たち北大馬術部に大きく貢献してくれました。しかし、残念ながら跛行がひどく、これ以上練習もできないと判断したため離厩させることとなってしまいました。部員はみな、ネイチャーから多くのことを学びました。これからはそれらを生かしてやっていきたいと思えます。

私たちに多くのことを学ばせてくれたネイチャーには大変感謝しております。これからも幸せな馬生を送ってくれることを心より願っています。ネイチャー本当にありがとう。

入 厩 報 告

◆シュガーシャック号◆



セン サラ 栗毛
平成21年2月24日生
安平町産
父 アドマイヤドン
母 メイプルシロップ
平成26年6月14日入厩

清 水 麻 優 美

シュガーシャックはノーザンホースパークから去年の6月14日に入厩しました。若く馬格も立派な馬で、現在は平芳悠人さんに調教していただいています。調教も順調に進んでいるので、将来は全日等で活躍してくれると思います。

◆チェルシー号◆



牝 中半血 栗毛
平成16年5月20日生
北海道標津郡中標津町産
父 マディクシー
母 不詳
平成26年10月7日入厩

中 津 裕 太

チェルシーは10月に乗馬クラブメインフィールドズから入厩しました。フラットワークでの基本的な運動をこなすことができ、障害飛越も北大では100cm程度なら可能です。基本的に素直で大人しいのですが、牝馬らしい一面を見せたり集中力が欠けてしまうことがあるので気を付けなければいけません。

北海道大学水産学部馬術部

主将 佐近 慈

初めまして、北海道大学水産学部馬術部の第14期主将を務めております、学部3年の佐近慈です。私達水産学部馬術部は、現在3年生5名、4年生7名、院生9名の計21名で活動しております。JRAさんのご厚意により、函館競馬場乗馬センターにて、3名の先生方のご指導を頂きながら練習に励んでおります。練習は乗馬スポーツ少年団や乗馬クラブの方々と合同で行っており、様々な地元の方と関わり合いのある、部活動としてはいくらか希少な環境でもあります。現在の活動時間は、基本的に毎週土・日曜日と祝日の午前中になります。本学の馬術部等他の部活動と比較すると、非常に限られた練習時間です。また、学部3年以降の学生しか在籍していないという函館キャンパスの特徴もあり、部としての活動規則は厳しくありません。そういった活動状況の中ではありますが、だからこそ漫然とただ乗馬するのではなく、各々目標を持って、それに沿った結果を求めて行けるような練習をして行ければと考えております。何より、恵まれた環境で練習出来ることに感謝しつつ、馬術の面白さを日々感じて活動して行く所存です。

話は変わりますが、昨年水産学部馬術部が50周年を迎えたことを記念して製作されていた「北海道大学水産学部馬術部50年史」が今年ついに発行と相成りました。4度の休部、練習場所の度重なる変更、自馬の所有等、平坦ならぬ道筋を経て現在に至るまで、水産学部馬術部を築いて来た方々の熱意が込められた冊子となっております。発行に伴い、去る2014年11月15日には記念会が開かれ、驚くほど大勢のOB/OGさんや関係者の方々に集まって頂きました。50年間各時代の、濃密で、今もなお鮮明な当時のお話を窺うことが出来、貴い時間となりました。多くのOB/OGさん方が、こうして集まり、50年史の発行や記念会の開催へ精力的に動いて下さった連携の強さとエネルギーにも、ただ驚くばかりです。現役部員も、沢山の力をこの会を通じて受け取ったことと思います。このエネルギーを次の世代に繋いで行けるよう、琢磨いたします。

最後になりますが、北海道大学馬術部のますますのご発展をお祈りすると共に、今後ともご交流のほどよろしく願いいたします。



卒部にあたって

● 梶山 恭子 (工・運営)

軽い気持ちで入部した私は、精神的に辛くなることが多く、その度に、辞めてやると心に誓い、友人にも誓い、結局最後までやってきてしまいました。一番の悔いは、馬術部生活後半までこの気持ちになることがあったことだと思っています。迷いがあるうちは、得られるものがほとんどありませんでしたから。このような私が偉そうな事は言えませんが、後輩に伝えたい事がいくつかあります。それは、自分たちがしていることに自信をもつこと。

自信が持てるようにできる限りをし尽くすこと。

この部活は自分達次第で良くも悪くも変えられるということ。

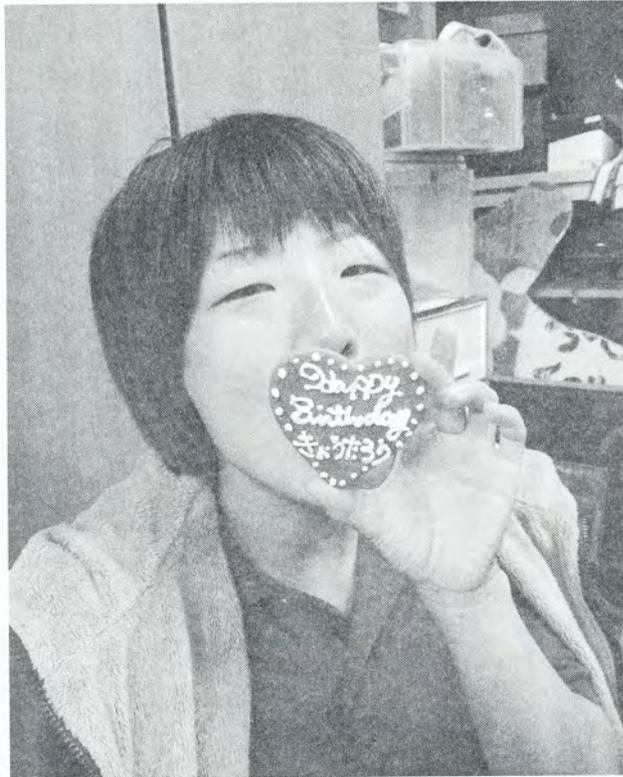
変えるために積極的になるということ。

自分たちを応援してくれる人を大切にすること。

もちろん馬を大切にすること。

僅か3年半の馬術部生活を、思い切り楽しんで欲しいです。

最後になりましたが、今まで支えて下さった先輩方、後輩、そしてドンパのみんな、関わって下さった全ての方々に感謝致します。本当にありがとうございました。



● 笹原良平(工・作業)

卒部直後は、ああやっと終わったんだと、ただ部活を終えられたことにほっとしていました。しかし、しばらくたった今では、もう一度戻って大変だったけど楽しかった部活の続きをしないと、少し思うようになりました。

僕は入部してから全然成長せずに、部活のことをちゃんと考えることができていなく、気がついたら最上級生になっていました。そのせいか、部活全体を引っ張っていかなければいけない立場なのに、迷ってばかりいて、解決しなければいけない問題が積もっていく一方でした。最後の1年は、毎日が地獄のように感じました。しかし、馬と関わっている間は、そんな辛いことも感じずに楽しい時間を過ごせました。上手くいかないことの方が多かったですが、自分の担当馬の成長を実感できたときは本当に嬉しかったです。もしかしたら親心というのは、こういうことなのかもしれないとも思いました。こんなに楽しいことをさせてもらえたことに、本当に感謝しています。

また、4年間で多くの人にお世話になりました。お忙しい中毎日騎乗の指導や新馬調教をしてくださったOBの平芳兄を始め、装蹄師の多田さん、獣医の川崎先生、野村兄、合宿でお世話になった乗馬クラブのインストラクターや従業員の皆様、一緒に部活をやっていた仲間、挙げていくと切りがありません。インストラクターや馬術選手だけではなく、様々な一流の人たちにたくさんのことを学ばせてもらいました。自分たちの目指しているものへ、ひたむきな情熱を近くで感じることができ、たくさん影響を受け、より一層熱く部活に励むことができました。本当にありがとうございました。



● 佐藤詩織(獣・馬匹)

入部してから卒部するまでの4年間、馬のことを考えない時間の方が短かったと思うほど、馬中心の生活をしていました。アラームには毎週の当番の時刻。講義の間も役職の仕事考えなきゃ…なんて考えてたり。きっと皆そんな感じなんだと思います。つくづく忙しい部だなあとと思います。つらいことばかりだったけれど、馬を可愛いと思う気持ちと、先輩・ドンパ・後輩みんなの優しさに支えられて、何とかやり通すことができました。濃厚な4年間になって良かったと思います。

自分は憂鬱な気分を顔に出しがちで、それに気づいたあるとき「先輩になってこれではいかん…」と思い空気づくりのために笑顔を作り始めました。最初は無理して笑っていたような気がします。でもそれも、いつの間にか心からの笑顔に変わってました。みんな、沢山の笑顔をくれてありがとう。練習後の女子部室が最も笑いあふれる場所のような気がします。馬術部員の女子力の低さにほっとする、そんな場所ですよね(笑)。

選手権も終わって朝・週末がフリーになった今でも中々忙しい生活をしています。部活をしていたころはよくもまあ乗り切っていたものだと思います。講義の時間は貴重な睡眠時間(にしくはなかったのだけれど…)。テストシーズンの連日3~4時間半睡眠はプライドだけで乗り切っていたような。きっと仕事を始めてからも思い出す記憶になるんじゃないかなと思います。医・獣医の子は勉強も大変だと思うけど、自分が精一杯やっている胸を張って言えるように、頑張ってね。

可愛い後輩たちの成長に期待しています。頼りなかったうちに付いて来てくれてありがとう。

最後に、井上部長、OB・OGの方々、バイト先の方々、他様々な場面でお世話になった方々に感謝の意を述べたいと思います。北大馬術部は多くの方々の支えがあって成り立つ部活なのだと痛感しました。また、学生同士の付き合いだけでなく、外部の方々との関わりを通して多くのことを学ぶことができたと思います。これから先は、自分も陰ながら支えになりたいと思います。

有難うございました。



● 小 山 寛 (工・作業)

4年間、悔いの残らないようにと努力してきましたが、卒部してみると結局、後悔だらけの4年間でした。何百回、何千回も後悔して、嫌になったこともありました。しかし、後悔したことは、次に生かされていって、自分の進む道を示してくれました。後悔するのも悪いことでは無いのかもしれない。

思い返してみると、ここまでがむしゃらにやれた事は、これまでの人生でありませんでした。この4年間はまさに自分にとって青春でした。ずっと目標にしていた全日本学生の舞台も終わり、少し寂しい気もしますが、また新しい青春を探していきたいと思います。現役の皆さんも、自分の青春を精一杯生きてください。

今までありがとうございました。



● 松村 萌美 (農・運営)

本当にあっという間でした。今振り返ってみると、後悔ばかりが残っています。私たちの代は、様々な面で至らないことが多く、OBの方々にも後輩にも迷惑をかけ、時に不信感を抱かせてしまったかもしれません。

しかし、このことでこの3年半をどれほど”てきとうに”過ごしてきたのかを痛感しました。

一日一日を大切に過ごしてください。そして、卒部した時に後悔のないような馬術部生活にしてください。

最後になりましたが、馬術部を通して出会ったすべての人たちと馬に感謝いたします。本当にありがとうございました。



● 藤村伊咲（農・会計）

現役時代は卒部したら毎日が暇になってしまうと不安だったのですが、実際は今まで後回しにしてきたこと（特に卒論）に追われて案外忙しい日々を送っています。そのせいか卒部したのが随分前のように感じます。今までを振り返ってみると、楽しかったことよりもつらかったことの方が多かったと思います。今は馬術部で良かったという思いよりも、とりあえず4年間やり切ることができてよかったという思いの方が強いです。私はチーフでもなければ、試合にも出ていないので何も結果を残していません。しかし馬術部を4年間続けたことで自分なりに成長できたと思いますし、それはきっとこれから社会に出た時に生きてくるのだと思います。そこで初めて馬術部で良かったと思える気がします。現役部員の皆さんもこの部活をつらく感じる時があると思いますが、そこから逃げないというだけでも大きな成長につながると思うので投げ出さないでほしいです。今後は今まで部活の役に立てなかった分、OBとして何か恩返ししていけたらいいなと思っています。

最後に、お世話になったOBの方々や、先輩、後輩、ドンパには本当に感謝しています。ありがとうございました。



部 員 紹 介

3年目

◎ 中 津 裕 太



品種	サラブレッド
毛色／性別／産地	黒鹿毛／雄／広島県
特徴	背が高い。不真面目。だけど要領よくこなす。スポーツできる。だけじゃない。かわいい絵を描く。料理もできる。裁縫もこなす。あとは気遣いだけ…。

◎ 新 谷 理 紗



品種	クォーターホース
毛色／性別／産地	栗毛／雌／石川県
特徴	普段は温厚だが自分の縄張りに深入りされると噛みついたり蹴るので注意。研究室では馬車馬のように働かされているのでいたわってあげましょう。

2年目

◎ 中 一 輝



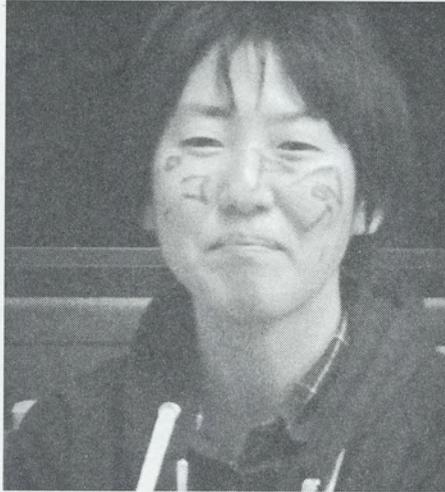
品種	クォーターホース
毛色／性別／産地	芦毛／雄／富山県
特徴	美味しいものには目がない。 仕事が早い、できる男。たまにオーバーヒートを起こすことがある。

◎ 佐 治 ひ な 子



品種	シエトランドポニー
毛色／性別／産地	栗毛／雌／東京都
特徴	馬への思い入れは人一倍強く、何でも一生懸命にやる。 面白いことを引き寄せる不思議な力を持つ。よく食べ、よく眠り、よくやらかす。

◎ 清水 麻優美



品種	サラブレッド
毛色／性別／産地	黒鹿毛／雌／千葉県
特徴	ポロ山をこよなく愛し、命を賭ける。ピュアメモリーの話になると、延々と語り続け、ゴリ押し。「集合まだですか!？」

1年目

◎ 上谷 丹里



品種	中半血
毛色／性別／産地	芦毛／雌／広島県
特徴	いつも笑顔で大人しい彼女の「裏の顔」は、部員の存在を脅かす。常に一步引き、周りを冷静に見ることができる頭脳派。

◎ 堅田 宏 樹



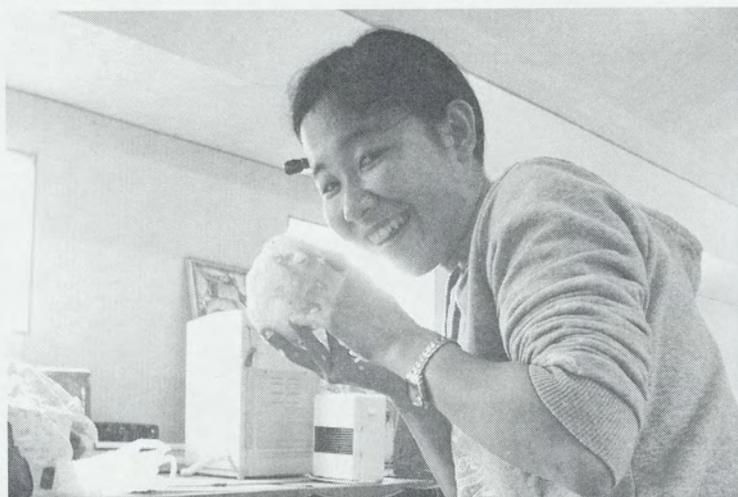
品種	中半血
毛色／性別／産地	鹿毛／雄／新潟県
特徴	通称「職人」。入部してからの成長度は一年の中でもピカイチ。どんな仕事でも文句ひとつ言わずにこなす、漢らしいヤツ。

◎ 岸 本 真 琴



品種	クォーターホース
毛色／性別／産地	黒鹿毛／雌／大阪府
特徴	どんな雑なボケも拾ってくれる、優しさ溢れるツッコミ役。気持ちが落ち込んでいる時、前向きな言葉で励ましてくれる。大丈夫やって！なんとかなるやろ。

◎ 工藤 雅子



品種	アラブ
毛色／性別／産地	黒鹿毛／雌／宮城県
特徴	自分よりも他人を優先する、THEお人好し。ボケが多すぎるので、スルーされてしまうことがある。人の気持ちに敏感で、繊細。

◎ 香野 由夏



品種	サラブレッド
毛色／性別／産地	青鹿毛／雌／福島県
特徴	馬場馬。よく転ぶ。口数は多い方ではないが、口を開くとぼろっと面白いことを言う。馬術部に入部してから食欲と筋力が大幅に増大し、貧弱キャラを卒業しようとしている。

◎ 杉 田 優



品種	アングロアラブ
毛色／性別／産地	鹿毛／雌／東京都
特徴	考え方が斬新なので時折部員を閉口させる。ある意味トラブルメーカー。弟や妹がいるようには見えないが、こう見えて長女。明るく元気なパワフルガール。

◎ 高 橋 春 南



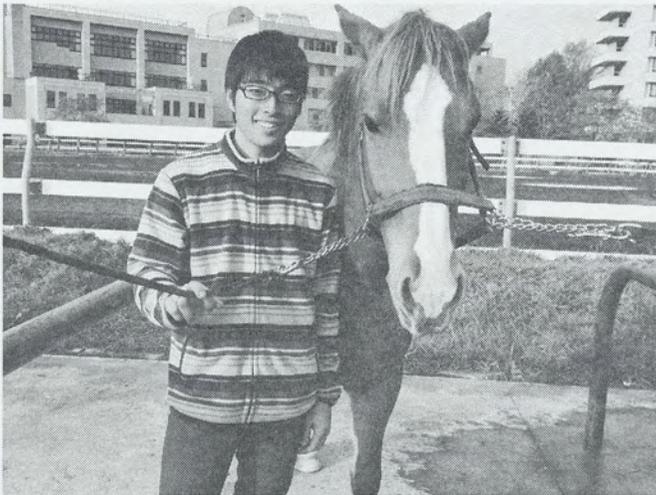
品種	木曾馬
毛色／性別／産地	鹿毛／雌／宮城県
特徴	三度の飯より飯が好き。エサをあげれば言うことを聞く（かも）。性格は温厚で素直、そして努力家。得意料理は野菜炒めで、いつもほんわが、馬術部の癒し系キャラ。

◎ 寺 嶋 伊武樹



品種	日本乗系種
毛色／性別／産地	鹿毛／雄／滋賀県
特徴	琵琶湖をこよなく愛す、馬術部のいじられキャラ。いつもナイスリアクションなので、どうしてもちょっかいをかけられやすい。明るく元気な男前。

◎ 寺 元 純



品種	サラブレッド
毛色／性別／産地	栗毛／雄／神奈川県
特徴	人と話すのが好きで、彼の周りにはいつもわいわい賑やか。会計の鬼。財布のひもは堅いが、口は緩い。担当についた馬に対する愛情は人一倍強い。

◎ 得 地 菜 摘



品種	北海道和種
毛色／性別／産地	月毛／雌／北海道
特徴	正真正銘の道産子。変顔が得意。 マイペースな愛されキャラだが、自分の仕事は責任を持って最後までやり遂げるといふ、力強い一面も持つ。

◎ 本 丸 尚 人



品種	サラブレッド
毛色／性別／産地	佐目毛／雄／福岡県
特徴	誰もが認めるジェントルマン。未だドンパにも敬語を使う。 いつも笑顔で明るいのが、眠いときと切羽詰った時にはブラックな一面を垣間見せ、部員を楽しませてくれる。

◎ 松尾朱実



品種	木曾馬
毛色／性別／産地	鹿毛／雌／東京都
特徴	焦らず、慌てず、自分のペースで。素直な馬も好きだけど、手のかかる子はもっと好き。彼女の周りには独特の穏やかな空気が流れ、その場を和ませてくれる。

◎ 水沼華奈子



品種	サラブレッド
毛色／性別／産地	栗毛／雌／岩手県
特徴	仕事、作業をテキパキとこなす、できる女。が、多忙によるストレスが原因で、しばしば暴動を起こす。女子力の低い馬術部女性陣に花を添える。

編集後記

今回の部報作成は、人数の少ない上級生に代わり、一年目の二人を中心に取り組みました。本来の運営の業務でもまだまだ未熟な私たちにとって、この部報の編集という任務は緊張を伴うものでした。過去の部報を手当たり次第に引っ張り出しては、どのようにすればより良い部報となるかを模索する毎日でした。幸い、早め早めに原稿を提出してくださった方々が多く、例年に聞くよりかはスムーズに事が進んだと思っております。

部報制作を通して、私たちは様々なことを学びました。先輩やOBの方々、そしてドンパと協力して一冊のものを作り上げるという初めての経験も含め、これからの北大馬術部を担う後輩たちに私たちが残せる大事なものの1つがこの部報であるということにも気づいた気がします。

一頭一頭、そして一人一人にそれぞれのストーリーがあります。この部報を読んで、そのストーリーの一部分を感じ取ってもらえることができれば幸いです。

最後になりましたが、右も左も分からない私たちに呆れず、最後まで部報作成をサポートしてくださった松村姉、および印刷会社の方々に感謝の意を表し、編集後記とさせていただきます。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

工藤雅子・水沼華奈子

北海道大学馬術部部報 第60号 平成27年 4月発行
編集者 北海道大学馬術部部報担当
工藤 雅子・水沼華奈子
印刷所 ひまわり印刷株式会社
〒065-0030 札幌市東区北30条東6丁目2-1
発行所 北海道大学馬術部
〒001-0023 札幌市北区北23条西12丁目
TEL・FAX 011-737-1626
銀行口座 北洋銀行 391-1-0443731
表紙元写真撮影者 井上 京

